

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

何時の時代の親も、我が子が自立できる人間になってほしいとの願いは不変だと思えます。今、幼稚園等に

通う子ども達が巣立つ未来はどんな社会でしょうか。

私が子ども時代に両親はじめ大人達が営んでいた仕事は、成人した時にも殆んどが残存していました。し

かし、20年30年後の未来ではどうでしょうか。到来する「Society 5.0」の社会では、現存する職業の47%が消え、今の子ども達の65%が未知の職業に就くと予測されており、ある意味、自立し己で飯を喰うことが今より難しくなるかも知れません。

それ故、幼稚園では新木来を生き抜く力を培うため「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を示し、

我が子が通う園と共に10の姿について話し合い、理解を深めながら子どもの成長を共に喜んでもほしいと思

います。お父さん・お母さん、親としてホッと生きてい



執筆者 細谷 實

また、子どもの成長を見る視点は幼稚園と家庭(親)が連携して同視点で見つ

うつくしま 教育と子育ての“森”づくり  
一般財団法人 福島県幼児教育振興財団  
理事長 岩城 光英  
事務局 / 福島市飯坂町平野字東原4-10  
TEL024-542-9321 FAX024-542-9319

